

教育研究所だより



令和7年9月4日 NO.112

夏期研修講座 ふいかえり



連日暑い日が続く中、夏期研修講座には延べ755名の熱心な先生方に参加していただきました。講師の方の講話や参加者同士のグループワークなど、多くの学びを得ることができました。学んだことを今後の保育・教育に活かしてほしいと思っています。参加者の感想を掲載して、講座を振り返ります。

◆ 就学前保育教育講座 ◆

講座 1		開催日	7月30日(水)	会場	なごやかセンター
講師	『保育者のためのコミュニケーション研修講座』 ～話す力・聴く力・ クレーム対応力～	感想	○園内での職員同士のコミュニケーション、保護者さんとの会話に自信がなく課題にしていたのですが、自信をもって堂々と話すこと、練習で上達できることがわかりました。この研修を活かして、明日からも頑張りたいと思います。 ○人と話すことは好きですが、聞くことに対しては苦手意識があったので、今日ポイントをいろいろと教えて頂き、とても充実した時間となりました。特に、相手の話を引き出すコツはずっと悩んでいる点だったので、今回学んだことを生かせるよう、練習していきたいと思いました。 ○コミュニケーション研修ということで、改めて話を聞くことで日頃意識していることを振り返ることができました。一方的な話し方ではなく、相手の返事や声、雰囲気を感じて話を続けることを意識していきたいと思いました。		
	元びわ湖放送アナウンサー 牧田 もりかつ 氏				
講座 2・12		開催日	8月5日(火)	会場	栗東歴史民俗博物館
講師	『持続的・発展的な幼保小接続』 ～語り合いで学びをつなぐ～	感想	○子どもの知りたい、やってみたいという気持ちが主体的な学びにつながることは全学年に共通。保育園幼稚園と連携を密に取り、小学校との接続がスムーズにいくようにしていきたい。 ○今ある小学校のシステムの中で、子どもの実態に合わせて柔軟にカリキュラムを組んだり、園の先生方と一緒に学び方を考えたりする大事さを感じました。 ○接続カリキュラムがいかにされた小学校の学習の取り組み方を具体的に紹介していただき、今後、カリキュラム作成をどのように進めていくのかイメージが持てました。実際これまでは保幼の遊びの学びをどのように小学校に取り入れられるのか、疑問を持っていました。小学校の学習の実践方法が変化することと共に、私たち保幼の保育実践も子どもの主体性が生かされ、10の姿の育成に繋がることをより意識したものにしていかなければいけないと思いました。		
	湖南市立石部南小学校 教頭 村地 和代 氏				

講座 3		開催日	8月26日(火)	会場	ひだまりの家
『生きていますごくいいんだ!』 ～子どもが生きる力を守る～		感想	○子どもはたくさんの力を内在している…との言葉は、障害の有無とにかかわらないことだと改めて感じた。また自立観について、他者に依存できる力を持つこと…とは。前回の笹森氏のお話とも重なり、誰かに相談できる力、頼りながら生きて行くことの大切さを再認識できた。 ○子どもにとって最善の利益とは何なのかを考えて接していかなければならないと感じました。様々な家庭背景があり、その生きづらさは社会環境や社会構造にあることを理解した上で、自分にできることを考えて行動していきたいと思いました。子どもの権利条約について再度学んでいこうと思います。 ○先生のお話をたくさん聞かせていただき、熱い思いにふれ、胸打たれた。個人を表面的に見て否定的にとらえてきたことがたくさんあったと、背景や SOS に気づける自分でありたい。遊ぶことは生きることそのもの、子どもたちの権利を守れているか、今一度自身の保育を振りかえり、寄り添っていきたいと感じた。		
認定NPO法人こどもの里 理事長 莊保 共子 氏					
講師					
講座 4・13		開催日	8月1日(金)	会場	なごやかセンター
『子どもの自尊感情を育てる 造形学習の在り方』 ～全ての子どもが育つ、 保育・授業の1・2・3～		感想	○今まで自分の指導は「こうさせたい。」「こういうものを作らせたい。」という思いでやっていたなと反省ばかりでした。もっと子どもに自由に思いつき活動させたいと思いました。自分を表現することが苦手な子どもが増えていると感じています。図工を通して自分らしさや自分のよさに気づき、もっともっと自分を表現できる子どもを育てていきたいです。 ○見覚えがよい作品がよい作品だと評価されがちだが、個々の出会いの地点からの育ちを評価していくことが大切だと学ぶことができました。何をもってよい作品なのかは、子どもがどれだけ楽しんで表現できたか、素材を感じ遊び込めたかを基準に選んでいきたいと思いました。 ○文化伝承を中心にした教科の基本的な授業スタイルではなく、子どもの育ちを支えることを中心にした図工の授業をつくっていくことが大切だと分かりました。素材や技法について理解すること、タイムリーな言葉かけを心がけ、子どもがやってみたくなる造形遊びの授業ができたらと思います。		
元滋賀県美術教育研究会 会長 大西 健之 氏					
講師					
講座 5・8		開催日	8月1日(金)	会場	なごやかセンター
『子どもの瞳がきらりと光る 保育・指導・支援のアイデア』		感想	○就学前、小学校、中学校と系統立った支援について、具体的な事例も示しながらお話いただき、大変参考になりました。今、目の前にいる子どもたちとも重ね、どんな支援ができるか考えながら、お話を聞きました。また、具体的な支援のアイデアをたくさん展示してくださったので、ぜひいかしたいと思います。 ○幼・小・中の通級教室で大切にされていること、目標にされていることを知ることができました。いろんな場面で困っている子どもたちを想像しながら、どのように支援していくか、しっかり考えていきたいと思いました。また、さまざまな動画で子どもたちの学びの環境をよりよいものにしようと考えてくださっている通級指導教室の先生方のアイデアをたくさん聞いたのも良かったです。 ○先生方が普段から実践されている方法や多くのアイテムなどを教えていただき、早速試してみたいと思えるようなヒントをたくさんいただきました。安心できる大人との関わりが、情緒の発達、学び、自信に繋がっていくことを再認識しました。		
幼児ことばの教室 各小中学校通級指導 担当					
講師					

◆ 特別支援教育講座 ◆

講座 6		開催日	7月29日(火)	会場	なごやかセンター
『アセスメントをもとにした子どもへの関わりと支援のあり方』 ～個別指導計画を中心とした支援と個別最適な学び～		感想	○個別の教育支援計画・指導計画の大切さと、その作成にあたっての責任を改めて感じました。合理的配慮について、教師のものさしだけで見て判断してはいけないと気づきました。子どもの思いに寄り添い、確認しながら成長に気づき、声をかけていく教員であり続けたいです。 ○研修の中では、子どもが抱える困難さは「読む」「理解する」「見る」「聞く」「話す」「書く」など、さまざまな側面で異なっており、一人ひとりの特性に応じた支援が求められることが強調されていました。それぞれの困難に対して教員が的確に気づき、適切に理解する姿勢が支援の出発点となることを改めて実感しました。 ○個別の指導計画は支援を繋いでいくために必要なものであること、児童が目標を達成できるようにスモールステップで考えていくことが大切だということが分かりました。後期の指導計画を作る時に非常に参考になる研修でした。		
講師	栗東市発達支援 アドバイザー 福井 芳彦 氏 				
講座 7		開催日	8月5日(火)	会場	栗東歴史民俗博物館
「発達障害をより多面的な視点から理解する」 ～二次障害や愛着の不安定も含めて～		感想	○本日の講座で、「先生を困らせたわけではなかった」という言葉を聞いて、ハッとさせられる部分があった。通常学級で全体指導をする中で、周りの子どもと違うことをする子どもは少なくはない。自分の指導を振り返っていて、「子どものためだから」と「みんなと同じように」や、「普通の型」にはめようとしている部分もあったように感じ、反省した。 ○「普通とはなにか」についてのお話がとても印象的でした。普通を人に押し付けるのは間違いで、言葉をもっと適切に使おうと思いました。愛着障害についても、愛情が注がれていないだけではなく、親と子どもの気持ち・行動のずれ違いであるということにとっても共感しました。子どもが求めていることを考えることって本当に大切だと感じました。 ○ご自身や子どもさんの様子や検査結果から、園や学校での困り感などをお話いただき、いろいろな子どもたちが浮かんできました。同じようにできるように「指導」しようとしてきなかったか、ほんとうの「支援」ができていたかと反省ばかりでした。「相談力」の大切さや、「知る、理解する、背景を考える」こと、「学校が安心して楽しめる場所に」すること、「愛着と発達を見極める」ことなど、9月からがんばろうという気持ちが大きくなりました。		
講師	社会福祉士 精神保健福祉士 笹森 理絵 氏 				

◆ 生徒指導・教育相談講座 ◆

講座 9		開催日	7月29日(火)	会場	なごやかセンター
『いじめ・不登校について考える』 ～コロナ禍で変わる子どもたちの実態～		感想	○講話の内容が、就学前期の関わりから繋がっていく事が具体的に分かりとても参考になりました。指示を出しすぎずトライ&エラーは大切な経験だと話しておられましたが、指示の出しすぎが指示待ちの姿勢を作ってしまうんだと知りました。 ○子ども達のコミュニティーが狭くなっていることや、友達関係、人間関係のこだわりや固定など、すごく身近な話でした。自分で決定する力、自己決定力が大切であることを改めて痛感しました。何をしなければいけないと事細かに指示を出してしまっていたと思い、もっと選択肢を与えていきたいと思いました。沢山失敗の経験を積ませていきたいと思いました。 ○今回の講座で現代の子どもたちの社会的背景、子どもたちの実態と教員の経験・教育観とのギャップについて教えていただき、「今の子はよく分からない」というネガティブな視点で立ち止まってしまうのではなく、「なぜそのような状態になっているのか」と考える視点を持つことの大切さを感じました。		
講師	佛教大学 教育学部 教授 原 清治 氏 				

講座 10		開催日	7月31日(木)	会場	なごやかセンター
教員向けゲートキーパー研修 『子ども・若者への関わり』 ～メンタルヘルスの視点から～		感想	○生徒たちの心の不安や訴えを受け止めるゲートキーパーとして、四つの役割ごとに段階を踏んで学ぶことができ、理解が深まった。周りの先生と実際にロールプレイを通して、この言い方だと生徒はこう思うかなど、具体的に思い浮かんでよかった。		
草津保健所 滋賀県精神保健福祉センター 市障がい福祉課 職員			○今回の研修では、現状を受け入れ寄り添うことが何よりも大切であることを学んだ。同時に寄り添うことによる教師側の負担についても考えることができた。個人で支えるのではなく、チームとして支えていけるよう、教員同士も繋がっていきたい。		
講師			○関係機関の方々が日々の取り組みや対応の中で実際に感じておられることをお話してくださっているので説得力がありました。具体的に声かけやスタンス、考え方など自身の確認や整理ができてよかったです。今後に生かしていきたいと思います。		
講座 11		開催日	8月7日(木)	会場	栗東歴史民俗博物館
『重大事態から学ぶ いじめの理解とその対応』		感想	○重大事態のほとんどが見えにくいじめであることを学びました。そのため、先入観や軽率な考えて指導・対応に当たるのではなく、一つ一つの対応を記録を残し、組織として対応に当たっていくことの大切さを改めて感じました。		
滋賀県スクールカウンセラーSV 臨床心理士 大畑 好司 氏			○大畑先生、シンポジストの先生方がおっしゃっていた、初期対応の重要性や被害対象の子どもによって聞き取り方の手法が異なることなど、職場で共通理解したい内容がたくさんありました。初期対応の誤りは誰にも起こりがちで、バイアスのかかった考え方を自分も常にしているということに気をつけていかねばと考えさせられました。		
講師			○大畑先生とシンポジウムの内容が繋がっていて非常にわかりやすい研修でした。同時に普段の自分の言動を再確認できた非常に中身の濃い研修でした。		

◆保育・教育・授業づくり講座◆

講座 14		開催日	7月30日(水)	会場	栗東市役所第1・2会議室
『授業支援システム 活用研修Ⅱ』		感想	○MetaMoJiの使い方について、実際に体験しながら具体的に学ぶことができたので勉強になった。また、操作方法だけではなく、オリジナル教材のダウンロードについても知ることができ、授業で使ってみたいと思った。夏休みの期間を使って、2学期以降の授業での活用を考えたり、職員間で今日の学習内容を共有したりしていきたい。		
(株)MetaMoJi 青野 佑一 氏			○まだまだMetaMoJiを広げていく段階のため、たくさんの方が受講しておられたのですが、「初めての人用」と「ステップアップの人用」とコースが分かれていても良いように思いました。		
講師			○Wi-Fiの関係で接続に時間がかかりましたが、内容は明日から使える実践的なものばかりで、9月から早速使ってみたいと思いました。2年生でもできる範囲で使えるようにしていき、中学年では当たり前に見えるようにしていきたいです。まずは、教師ができることを増やし、子どもたちに還元していける研修をたくさん開いてくださると嬉しいです。		

◆一般教育研修講座◆

講座 15		開催日	8月8日(金)	会場	栗東市商工会館
『子どもたちの自尊感情を高めるライフスキル教育演習』		感想	○子どもたちの自尊感情を高めるライフスキル教育について、よい集団づくりのグループ活動や模擬授業を通して学びました。		
講師	ライオンズクエスト 寺西 勉 氏		○体験型のワークショップを多様な地域のさまざまな経験をお持ちの方々と共に体験させていただきました。特に、模擬授業では、子どもたちの自己肯定感を高めつつ、集団活動に持っていくことの大切さを学ぶことができました。今後の学級経営や集団づくりなどで生かしていきたいと思います。		
			○本日の講座から、非認知能力の育成の重要性を再認識することができました。また、子どもたちと同様に、指導する教師も、日々成長していくことが大切なことだと感じました。今後も自身のライフスキルの向上に努め、学級をよりよい集団にしていくための活動につなげていきたいです。		
講座 16		開催日	8月5日(火)	会場	ひだまりの家
『部落差別解決に向けて 私たちに求められていることは』		感想	○差別が激しかった出来事を直接聞き、「当事者だけががんばる運動は終わり」「みんなでなくさないとならない」という話に腹の底から納得しました。		
講師	住吉隣保事業推進協会 藤本 真帆 氏		○差別は家庭からという言葉にとっても納得した。自分の家庭環境もそうだったと思う。自分の身近なところから差別をなくしていきたい。		
			○今ある差別を学ぶことができ、子どもたちの顔が思い浮かびました。差別をなくすために、自分自身の差別意識と向き合いながら保護者の方にも考えてもらえるように話を重ねていきたいと思っています。		
講座 17		開催日	8月6日(水)	会場	ひだまりの家
『ハンセン病の正しい理解と 差別解消に向けて』		感想	○知識の少ない私たちにも想像しやすいように、コロナの例を出して説明してくださるなど、今でも起こりえることとしてとらえることができました。思い込みや相手の立場を考えない「よかれ」と思った振る舞いが、他者を傷つけていないか普段から気をつけておきたいと考えることができました。		
講師	国立療養所 邑久光明園 青木 美憲 氏		○改めて差別は人がつくるもので、無くすことができるのも人だと思いました。国がそういう施策をしているから、多くの人がそう言っているからという理由だけで自分で正しいことを知ろうとせず物事を判断することの怖さを感じました。		
			○ハンセン病について、本で読んだりしていたが、直接話を聞いたことがなかったので、患者さんと関わっている方の話が聞けてよかったです。全ての差別に通ずる話だったので、教材化したいです。		

講座 18		開催日	8月7日(木)	会場	ひだまりの家
講師	『パパは女子高生だった』 ～自分らしく生きること～	感想	○「こういう生き方の人がある、こういう家庭のあり方もある」ということを知るだけでいいというお話に、それこそ人権啓発の一番大切なところだと思いました。 ○「悩んでいる人がいることを知ること」「一人の人としてその人を見ること」「おかしいと思ったことに声を上げること」「ありのままの自分を受け入れること」「いろいろな家族があっという間に、たくさんの勇気と元気と優しさを学ばせていただきました。今日学んだことを明日からの生き方に繋いでいきたいと思います。 ○一人の人として認める、性の多様性から生き方を学ぶなど、自分自身を見つめ、問い直す機会となりました。まず知ることから始まる、私自身も初めて知ることがあり、始まりの一步の機会もいただきました。		
	Like myself 前田 良 氏 				
講座 19		開催日	8月19日(火)	会場	ひだまりの家
講師	『インターネットと人権』 ～差別の起こりとメカニズム～	感想	○そんなつもりはなかった…は通らないのがインターネットの恐ろしいところであり、自分自身がいろいろな研修でアップデートをしていくことの大切さを再認識した。差別されない権利・人格的利益を守るために自分は何をすべきか何ができるのか…。誰もが安心して自信をもって自由に生きられること＝人権として、考えて言動にうつしたい。 ○近年、SNSのトラブルの対応をする機会が増えていて、学校での指導の大切さを感じています。今日のお話の中の「玄関に貼れる情報がSNSに載せても良い情報」というのが、とても子どもたちにとってわかりやすい例えだと思いました。今後、学校での指導に活かしていこうと思います。 ○インターネットの人権侵害について詳しく知ることができ、ネットの風潮として一人ひとりの生き方を侵害してしまう現状があることを学びました。また、「そんなつもりはなかったのに」と知らず知らずのうち加害者になってしまうことがあるネット上の恐ろしさを改めて感じました。今回学んだことをまず自分自身が気をつけていくことを大事にし、インターネットでの人権侵害について、子どもたちと共に考えていくことが大切だと感じました。		
	滋賀県人権センター 萩原 伸浩 氏 				

夏季休業も終わり、いよいよ学校・園生活が始まります。

夏季休業中の研修等で学んだことを保育・教育に活かし、

子どもたちの成長につなげられますよう、先生方の実践に期待しています！

